

令和8年度 シラバス

教 科	国語	科 目	論理国語	学年 学科 類型	3年 商業科 会計コース
単位数	2	教科書	精選 論理国語(三省堂)		
副教材等	精選 論理国語 学習課題ノート(三省堂)				

学習の目標	1 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしましょう。 2 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしましょう。 3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養いましょう。
学習の方法	・必要な情報を収集し活用しながら他者との対話を通して、深い理解を目指します。 ・教材の解釈や報告、発表などの言語活動を積極的に行うことを通して、自己の思いや考えを深めたり広げたりします。 ・言葉を通して他者や社会に関わり、読書に親しむことで自己の向上を目指します。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	・「情報社会」を生きるⅡ ・言葉を見つめるⅡ ・共生社会を創造する	・情報社会を生きるためのメディアリテラシーについて自分の考えをまとめる活動を通して、論理的、批判的に考える力を伸ばします。 ・社会的視点から言葉について考え、言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させる態度を養います。 ・共生社会の実現に向けた課題について考え、発表などの言語活動を通して、自分の思いや考えを広げたり深めたりします。
2 学期	・経済について考える ・国際社会を考える ・心と向き合う	・経済との関わりから社会的課題について考え、必要な情報を収集し活用しながら課題解決の方策をまとめ、創造的に考える力を養います。 ・これからの国際社会の課題について資料を読んで考え、他者との対話を通して深い理解を目指します。 ・心について様々な視点から考え、考えたことや発見したことを文章にまとめる活動を通して、自分の思いや考えを広げたり深めたりします。
3 学期	・「リスク社会」を生きる ・近代・現代社会を考える	・「リスク社会」について、資料を用いて考察する活動を通して、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けます。 ・現代社会を歴史の中で捉え直すことで、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養います。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	「書くこと」、「読むこと」の2領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	国語	科 目	国語表現	学年 学科 類型	3年 商業科
単位数	2	教科書	国語表現(大修館)		
副教材等	国語表現 基礎演習ノート(大修館)				

学習の目標	1 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしましょう。 2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしましょう。 3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養いましょう。
学習の方法	・必要な情報を収集し活用しながら他者との対話を通して、深い理解を目指します。 ・教材の解釈や報告、発表などの言語活動を積極的に行うことを通して、自己の思いや考えを深めたり広げたりします。 ・言葉を通して他者や社会に関わり、読書に親しむことで自己の向上を目指します。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	・書いて伝える ・小論文 ・自己PRと面接	・時と場合に応じた言葉と表記を使い分ける活動を通して、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けます。 ・小論文を書く活動を通して、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにします。 ・効果的な自己PRを考え、面接練習を通して、実社会における他者との関わりの中で伝え合う力を高めます。
2 学期	・声とコミュニケーション ・メディアを駆使する	・ネット社会におけるコミュニケーションツールを使いこなし、コミュニケーションを豊かにします。 ・様々なメディアと情報に触れ、活用方法を考える活動を通して、論理的に考える力や深く共感する力を伸ばします。 ・朗読劇を通して、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようとする態度を養います。
3 学期	・表現を楽しむ	・プレゼンテーションやスピーチなどを通して、全体の構造を意識して説明するとともに間の大切さを学びます。 ・パンフレット作りやエッセイの創作を通して、必要な国語の知識や技能を身に付けます。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の2領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価

(備考) 1、2学期の定期考査は、期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。

令和8年度 シラバス

教 科	地理歴史	科 目	地理総合	学年 学科 類型	3年 商業科
単位数	2	教科書	高等学校 新地理総合(帝国書院)・新詳高等地図(帝国書院)		
副教材等	図説地理資料 世界の諸地域NOW 2026、地理総合・探究ワークブック2026(愛媛県高教研地理歴史・公民部会地理部門)、高等学校 新地理総合ノート(帝国書院)				

学習の目標	社会事象の地理的な見方・考え方を身に付け、課題を迫及したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付けます。
学習の方法	・教科書を基本教材としつつ、資料豊富な副教材も活用しながら学習内容の定着を図ります。 ・地図帳や作業地図などを活用して、自然環境、産業、人々の生活・文化、地球的課題などの特徴や分布状況を空間的な広がりの中で捉えていきます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1部 第1章 地図と地理情報システム 第2章 グローバル化する世界 第2部 第1章 生活文化の多様性と国際理解	・身近にある様々な地図、GISやGPSの仕組み、情報を地図化する方法を学習します。 ・世界の国々が貿易、交通、観光などによってどのように結び付いているかを学習します。 ・人々の生活と地形、気候、宗教等の関連性を理解し、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性について学習します。
2 学期	第1章 生活文化の多様性と国際理解(2) 第2章 地球的課題と国際協力	・人々の生活と地形、気候、宗教等の関連性を理解し、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性について学習します。 ・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題等を基に、地球的課題の解決について考えます。
3 学期	第3部 持続可能な地域づくり 第1章 自然環境と防災 第2章 地域調査	・自然環境の特色と自然災害の関連性を理解し、地域社会で起こりうる自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	地理に関わる事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めている。
評価方法	・定期考査 ・小テスト	・課題、レポート ・発表 ・パフォーマンス評価	・ノート ・ポートフォリオ評価

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。学年末考査は、行わない。
2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教科	公 民	科 目	政治経済	学年 学科 類型	3年 商業科 会計コース
単位数	3	教科書	政治・経済 POLITICS & ECONOMY（数研出版）		
副教材等	政治・経済資料 2026（東京法令出版）、4ステージ演習ノート政治・経済 新課程（数研出版）				

学習の目標	1 現代の日本の政治・経済及び国際関係について関心を高め、政治・経済に関する基本的な知識や見方・考え方を身に付けます。 2 政治や経済、国際関係などに関する諸課題を主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民としての態度を育みます。
学習の方法	・教科書を基本教材としつつ、資料豊富な副教材も活用します。 ・授業で学んだ範囲をその日のうちに復習し、理解しながら学習を進めましょう。 ・定期的に内容確認の小テストを実施し、学習内容の定着を図ります。

学 期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1章 現代の政治 第1節 民主政治の基本原則と展開 第2節 日本国憲法と基本的人権 第3節 日本の政治機構 第4節 政治参加と民主政治の課題	・民主政治の基本原則を学び、民主政治の本質を理解します。 ・日本国憲法における基本的人権の尊重、国民主権、政治機構について学習し、民主主義の本質を理解します。 ・日本の政治機構について学習し、現代日本の政治について理解を深めるとともに、主権者としての政治参加の在り方を考察します。 ・学習プリント、小テスト、定期考査
2 学期	第2章 現代の経済 第1節 経済活動の意義と経済体制 第2節 現代経済のしくみ 第3節 日本経済と福祉の向上 第3章 現代の国際社会 第1節 国際政治の動向 第2節 国際経済の動向 第3節 国際社会の課題と日本の役割	・資本主義経済と社会主義経済の発展と変容、経済体制について学び、現代の日本経済及び世界経済について理解します。 ・国民経済における市場経済の機能や限界、財政や金融機関の役割などについて理解し、経済社会の在り方について考察します。 ・戦後の日本経済を学び、中小企業や農業、労使関係、少子高齢社会についての課題を考察します。 ・国際社会の変遷や国際法、国際機構について学習し、国際政治の特質について理解し、国際平和のための日本の役割を考察します。 ・貿易の意義や為替相場、国際収支のしくみについて理解し、国際協調の必要性や国際経済における日本の役割を考察します。 ・学習プリント、小テスト、定期考査
3 学期	問題演習	・問題演習を行い、問題の傾向に慣れるようにします。 ・学習プリント、小テスト

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養っている。	現代社会に生きる人間としての在り方・生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めている。
評価方法	・定期考査、小テスト ・パフォーマンス評価 ・課題	・定期考査、レポート ・ポートフォリオ評価 ・課題	・出席状況、行動の観察 ・パフォーマンス評価 ・課題

- （備考） 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。学年末考査は行わない。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	数学	科 目	数学A	学年 学科 類型	3年 商業科
単位数	2	教科書	新編 数学A 改訂版（啓林館）		
副教材等	ネオパル数学A 新版 （第一学習社）				

学習の目標	数学の基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間とのかかわりや、社会生活において数学が果たしている役割について理解し、数学に対する興味・関心を高めるとともに、数学を活用していく能力を身に付けます。
学習の方法	- 教科書と並行して、問題集「ネオパル」で演習を行います。予習・復習を徹底するとともに、疑問点の解消に向けて努力してください。 - 学習課題は必ず行い、提出物は期限までに必ず提出してください。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 順列・組合せ 第3節 確率とその基本性質 第4節 いろいろな確率	- ある事柄が起こる場合の数を数える方法を学習します。 - 順列や組合せの意味について理解し、それらの総数を求める方法を学習します。 - 確率の意味を確認し、事象の確率を求める方法を学習します。 - 複数の試行を行ったときの確率を求める方法を学習します。
2 学期	第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質 第2節 円の性質 第3節 作図 第4節 空間図形	- 三角形、四角形に関する基本的な性質について学習します。 - 円に関する基本的な性質について学習します。 - 三角形や円の性質を用いた作図について学習します。 - 直線や平面の位置関係や、多面体に関する基本的な性質について学習します。
3 学期	第3章 数学と人間の生活	- 数量や図形に関する事柄と人間の活動とのかかわりについて学習します。 - 数学と文化とのかかわりについて学習します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしている。
評価 方法	- 定期考査、小テスト - 発表 - 課題プリント - ノート	- 定期考査、小テスト - 発表 - 課題プリント - ノート	- 行動の観察 - 発表 - 課題プリント - ノート

- （備考） 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。
2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	理 科	科 目	地学基礎	学年 学科 類型	3年 商業科(会計コース)
単位数	2	教科書	高等学校 地学基礎(啓林館)		
副教材等	Navi&トレーニング 地学基礎 三訂版 (啓林館)				

学習の目標	1 身の回りにある自然の事物の観察や、発生する自然現象について考察します。 2 地学を通して、身の回りの自然現象を科学的に思考する態度や自然環境の保全に寄与する姿勢を身に付けます。
学習の方法	・授業中は教科書の内容だけでなく、資料集に掲載されている図や表から、頭の中で地学現象のメカニズムを3次元でイメージすることが大切です。 ・家庭学習では副教材を用いて基礎知識を定着させ、授業内容をさらに理解できるように心掛けてください。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1部 固体地球とその活動 第1章 地球 第2章 活動する地球 第2部 大気と海洋 第1章 大気の構造 第2章 太陽放射と大気・海水の運動 第3章 日本の天気	・固体地球の大きさや内部構造などについて、観測・計測データを用いて、考察し、理解を深めます。 ・地球表面で生じる地震活動や火山活動を、地球内部での対流運動やプレートテクトニクスと関連付けて学習し、理解を深めます。また、火成岩の分類について、実験を交えて学習します。 ・大気圏の構造や水と気象現象のかかわりについて、実験を交えながら学習することによって理解を深めます。 ・地球規模で生じる気象現象について、地球のエネルギー収支を踏まえて学習することによって、理解を深めます。 ・日本の天気について、これまで学習した水と気象現象の関わりやエネルギー収支を交えながら学習することで理解を深めます。
2 学期	第3部 移り変わる地球 第1章 地球の誕生 第2章 地球と生命の進化 第3章 地球史の読み方 第4部 自然との共生	・宇宙や地球の誕生について、時間的、空間的スケールの違いを念頭に置きながら学習し、理解を深めます。 ・地上の環境の変化や生物の進化について、地層中の堆積構造や化石などから推定する思考力を養うとともに、先史時代と現在のつながりを理解します。 ・これまで学習した内容を念頭に置き、これからの自分の生活において、学習した内容をどのように活用していくのかを考えます。
3 学期	総合演習	・学習した内容の復習に取り組みます。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	地学に関わる諸現象や形成される地形や地質などについて、複数の視点から内容を捉え、理解するとともに、諸資料を効果的に調べたり、実験を行ったりする技能を身に付けている。	地学に関わる諸現象や形成される地形や地質などについて、その現象の原理や地形・地質などの成因を、複数の視点から理解・考察したり、実験の結果を他者が理解しやすいように適切にまとめ、表現することができる。	地学に関わる諸現象や形成される地形や地質などについて、自身の生活に生かし、活用しようとする態度を身に付けている。また、学習活動全般において、課題を確実に提出したり、教員の指示をよく聞いて活動することができる。
評価 方法	定期考査 パフォーマンス評価 課題	定期考査 パフォーマンス評価 課題	定期考査 パフォーマンス評価 課題

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	理 数	科 目	体 育	学 年 学 科 類 型	3 年 商 業 科
単 位 数	3	教科書	現代高等保健体育 改訂版 (大修館)		
副教材等					

学習の目標	1 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けます。 2 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝える力を養います。 3 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養います。
学習の方法	・体づくり運動、球技・武道(選択)、ダンス・陸上競技(選択)を通して、自分で課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てます。 ・体育理論では、豊かなスポーツライフの設計の仕方について学びます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	・体づくり運動 ・選択 1 (球技【ソフトボール・バレーボール・テニス・バドミントン】・武道) ・体育理論	・体ほぐしの運動を通して体を動かすことの楽しさや心地よさを味わい、心と体が互いに影響し変化することを学びます。 ・球技では、多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方などを理解します。仲間と連携しゲームを展開し、生涯にわたって運動を豊かに継続するための意欲を育みます。 ・武道では、相手を尊重するとともに、礼法などの伝統的な行動を大切にし、得意技を用いた攻防が展開できるようにします。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解します。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることを目指します。
2 学期	・体づくり運動 ・ダンス ・選択 1 (球技【サッカー・バスケットボール・テニス・バドミントン】・武道) ・体育理論	・体力を高める運動を行います。その際、自己のねらいに応じて、健康の保持増進や調和の取れた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立てて取り組むようにします。 ・宇和島東高校で受け継がれている動きを表現します。テーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で対極の動きや空間の使い方に変化をつけて即興的に表現することで、イメージを具現化した作品にします。 ・球技では、多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方などを理解します。仲間と連携しゲームを展開し、生涯にわたって運動を豊かに継続するための意欲を育みます。 ・武道では、相手を尊重するとともに、礼法などの伝統的な行動を大切にし、得意技を用いた攻防が展開できるようにします。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることを目指します。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について学習を主体的に取り組むようにします。
3 学期	・選択 1 (球技【ソフトボール・バレーボール・テニス・バドミントン】・武道)	・球技では、多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方などを理解します。仲間と連携しゲームを展開し、生涯にわたって運動を豊かに継続するための意欲を育みます。 ・武道では、相手を尊重するとともに、礼法などの伝統的な行動を大切にし、得意技を用いた攻防が展開できるようにします。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。
評価方法	・パフォーマンス評価 ・小テスト	・課題レポート ・小テスト	・出席状況 ・行動の観察

- (備考)
- 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 - 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	芸 術	科 目	音楽Ⅱ	学年 学科 類型	3年 商業科 情報コース・地域コース
単位数	3	教科書	MOUSA2(教育芸術社)		
副教材等					

学習の目標	1 音楽を愛好し、音や音楽に対する興味・関心を高め、主体的に学習に取り組みます。 2 音楽のよさや美しさを理解し、自己のイメージを表現するための技能を身に付け、それを生かして個性豊かに表現します。 3 多様な音楽に対する視野や理解を深め、主体的に鑑賞します。
学習の方法	・歌唱では、音楽Ⅰより難易度の高い歌曲を歌います。授業での楽曲や演奏方法に関する説明をよく聞き、理解して演奏してください。 ・器楽では、コード進行を学習しながら創作活動にも生かせる旋律と伴奏の演奏を練習します。器楽で学習し

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	1 歌唱 ポピュラー・ソング 日本歌曲 イタリア歌曲 2 器楽 鍵盤楽器 3 鑑賞 ミュージカル	・曲の背景や歌詞の内容を理解し、イメージを持って歌います。 ・外国語歌曲の発音を学びながら諸外国の文化を理解し、表現を工夫して歌います。 ・楽器の奏法を理解し、演奏します。 ・楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏します。 ・声や楽器の音色の特徴と表現上の効果を感じ取りながら鑑賞します。 ・楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者の特徴を理解して鑑賞します。
2 学期	1 器楽 ギター 2 創作 音階から音楽を作ろう 3 鑑賞 アマデウス	・楽器の奏法を理解し、演奏します。 ・楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏します。 ・創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら個性豊かに創作表現を創意工夫しますことを身につけます。 ・声や楽器の音色の特徴と表現上の効果を感じ取りながら鑑賞します。 ・楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者の特徴を理解して鑑賞します。
3 学期	1 合唱 式歌 卒業の歌 2 鑑賞 ベートーヴェン 西洋音楽史・楽典	・曲の背景や歌詞の内容を理解し、イメージを持って歌います。 ・外国語歌曲の発音を学びながら諸外国の文化を理解し、表現を工夫して歌います。 ・声や楽器の音色の特徴と表現上の効果を感じ取りながら鑑賞します。 ・楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者の特徴を理解して鑑賞します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
評価方法	・行動の観察 ・実技テスト ・小テスト ・ワークシート	・行動の観察 ・実技テスト ・小テスト ・ワークシート	・行動の観察 ・出席状況 ・実技テスト

(備考) 1 ギターについては選択者全員で使用します。丁寧に扱い、授業後は整理整頓に努めてください。

令和8年度 シラバス

教 科	芸術	科 目	美術Ⅱ	学年 学科 類型	3年 商業科 情報コース・地域コース
単位数	3	教科書	美術2（光村図書）		
副教材等					

学習の目標	1 1年次の学習内容に継続し、表現力や想像力をさらに伸ばします。 2 これまでの知識、技術及び経験を基に、主体的で個性的な表現を追求します。 3 鑑賞活動を通して、他者の考えを尊重し、自分の考えを適切に表現します。
学習の方法	・すべての表現活動において、主にアクリル絵の具を使用します。 ・絵画、デザイン、立体造形、鑑賞、それぞれの学習項目の中に、美術を学習する上で大切な基礎となる内容が入ってきます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	1 住まいをデザインする 2 アニメーションの歴史	・建築家 隈研吾の作品を鑑賞し、建築への考え方やデザインの工夫を学びます。 ・透視図法を学習し、自分が理想とする部屋を設計し、形になる面白さを味わいます。 ・アニメーションの仕組みを理解し、6面で展開するノマキューブにアニメーションを制作します。 ・方眼工作用紙で立方体を作り、組み立てることでノマキューブの構造を理解します。
2 学期	3 風景を撮影する	・日本美術や日本の伝統文化についての理解を深めるとともに、日本独特の絵画様式について学びます。 ・自分が好きな風景を撮影し、金屏風の中に構成します。 ・日本画の特徴を踏まえながら着色します。
3 学期	4 抽象への誘い	・抽象絵画とそれらを描いた作家について知り、作品に込められた意図や工夫を感じ取ります。 ・偶然できた色や形から着想する描画法など、具象作品とは異なる表現方法で作品を制作します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができている。	造形的なよさや美しさ、表現意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めることができている。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を身に付けている。
評価方法	・行動の観察 ・実技 ・作品 ・小テスト	・行動の観察 ・実技 ・作品 ・レポート	・行動の観察 ・出席状況 ・制作状況 ・作品の提出

（備考） 美術室の道具類は、美術選択者全員で使用します。丁寧に扱い、授業後は整理整頓に心掛けましょう。

令和8年度 シラバス

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	学年 学科 類型	3年商業科 情報コース・地域コース
単位数	3	教科書	書道Ⅱ（東京書籍）		
副教材等					

学習の目標	1 様々な書体の古典を勉強し、古典の美に触れ、感性を磨きます。 2 古典を臨書し、様々な書体を書くための技術を身に付けます。 3 日常生活に即した、整った字の書き方を学びます。
学習の方法	・古典の臨書を通して、観察力や技術を学び、集中力を養います。 ・作品の概要や古典の書法を学び、作品への理解を深めます。 ・古典で学習した内容を、創作活動に活用します。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	1 楷書 2 行書	・1年次で学習した知識を基に、より発展的な楷書の古典作品を臨書します。 ・書風や用筆法を学習し、作品による筆法の違いを学びます。 ・より発展的な行書の古典作品を臨書し、表現の幅を広げます。 ・時代によって異なる書風を鑑賞し、臨書に生かします。
2 学期	3 草書 4 隷書・篆刻	・字の崩し方の原理を学習し、流動する用筆美を味わいます。 ・書体の特徴を理解し、字形や用筆法を学習します。 ・古典作品のそれぞれの特徴を捉えて臨書します。 ・半切作品を制作し、公募展へ出品します。
3 学期	5 仮名 6 創作(仮名) 7 創作(漢字)	・古典の特徴をとらえて、流動する仮名独特の用筆美を味わいます。 ・短歌や俳句などを、古典から集字しながら創作します。 ・今までに学習した臨書作品を基に、創作します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	書の表現方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美しさを感じ、深くとらえたりすることができるようにする。	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
評価方法	・作品 ・小テスト	・ワークシート ・作品	・表現活動への取組 ・ワークシート ・提出物

(備考)

令和8年度 シラバス

教 科	外国語	科 目	英語コミュニケーションⅡ	学年 学科 類型	3年 商業科 情報ビジネスコース
単位数	3	教科書	BLUE MARBLE English Communication Ⅱ (数研出版)		
副教材等	英単語ターゲット1200(旺文社)、Vision Quest New English Grammar 24 WORKBOOK(啓林館)				

学習の目標	1 英語を理解し英語で表現しようとする、コミュニケーションへの積極的な態度を養います。 2 教科書等の英語を読んだり聞いたりしたことに対する自分の感想や意見を、適切な英文で表現できる理解力と表現力を習得します。 3 基本的な構文や文法、語彙を習得します。CEFRのA2以上の取得を目標とします。
学習の方法	・授業は、本文をノートに写し、教科書に出てくる新出単語の意味を調べてノートに書いておくことが前提になります。辞書を使いながら、できる限り本文を日本語に直してみましょう。授業中の言語活動に参加できるように、家での準備を自分の力で必ずやる習慣をつけましょう。 ・自分の意見を表現するときに、分からないことがあれば、辞書を利用して、自分で調べてみるようにしましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	Lesson 6 An Irish Poet on a Mission Lesson 7 Be Free from Gender Bias	・翻訳を通して日本文学の美しさを世界に広めるアイルランド出身の詩人について学びます。 ・先行詞を含む関係副詞/複合関係詞について理解します。 ・身近にひそむ男性／女性への偏見と、それをなくそうとする取組について考えます。 ・比較の慣用表現について理解します。
2 学期	Lesson 8 The Diminutive Giant Who Fought for Refugees Lesson 9 Tackling Global Warming	・難民保護に尽力した「小さな巨人」、緒方貞子の信念について学びます。 ・仮定法現在について理解します。 ・地球温暖化の新しい対応策、ジオエンジニアリングの利点・欠点を考えます。 ・名詞＋句、名詞＋節、can/could/will/ wouldの仮定的な意味について理解します。
3 学期	Lesson 10 Keys to Finding Happiness	・「幸せ」を自分で切り開く方法を科学的な視点で考えます。 ・比較、省略、部分否定について理解します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価 方法	定期考査 パフォーマンステスト 小テスト	定期考査 パフォーマンステスト レポート課題	言語活動への参加状況 パフォーマンステスト

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅡ	学年 学科 類型	3年 商業科 地域ビジネスコース
単位数	3	教科書	BLUE MARBLE English Communication Ⅱ (数研出版)		
副教材等	英単語ターゲット1200(旺文社)、Vision Quest New English Grammar 24 WORKBOOK(啓林館)				

学習の目標	1 英語を理解し英語で表現しようとする、コミュニケーションへの積極的な態度を養います。 2 教科書等の英語を読んだり聞いたりしたことに対する自分の感想や意見を、適切な英文で表現できる理解力と表現力を習得します。 3 基本的な構文や文法、語彙を習得します。CEFRのA2以上の取得を目標とします。
学習の方法	・授業は、本文をノートに写し、教科書に出てくる新出単語の意味を調べてノートに書いておくことが前提になります。辞書を使いながら、できる限り本文を日本語に直してみましょう。授業中の言語活動に参加できるように、家での準備を自分の力で必ずやる習慣をつけましょう。 ・自分の意見を表現するときに、分からないことがあれば、辞書を利用して、自分で調べてみるようにしましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	Lesson 6 An Irish Poet on a Mission Lesson 7 Be Free from Gender Bias	・翻訳を通して日本文学の美しさを世界に広めるアイルランド出身の詩人について学びます。 ・先行詞を含む関係副詞/複合関係詞について理解します。 ・身近にひそむ男性／女性への偏見と、それをなくそうとする取組について考えます。 ・比較の慣用表現について理解します。
2 学期	Lesson 8 The Diminutive Giant Who Fought for Refugees Lesson 9 Tackling Global Warming	・難民保護に尽力した「小さな巨人」、緒方貞子の信念について学びます。 ・仮定法現在について理解します。 ・地球温暖化の新しい対応策、ジオエンジニアリングの利点・欠点を考えます。 ・名詞＋句、名詞＋節、can/could/will/ wouldの仮定的な意味について理解します。
3 学期	Lesson 10 Keys to Finding Happiness	・「幸せ」を自分で切り開く方法を科学的な視点で考えます。 ・比較、省略、部分否定について理解します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価 方法	定期考査 パフォーマンステスト 小テスト	定期考査 パフォーマンステスト レポート課題	言語活動への参加状況 パフォーマンステスト

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	外国語	科 目	英語コミュニケーションⅢ	学年 学科 類型	3年 商業科 会計ビジネスコース
単位数	3	教科書	ELEMENT English Communication Ⅲ(啓林館)		
副教材等	Vision Quest総合英語 Ultimate 2nd Edition、英単語ターゲット1900、UPGRADE英文法・語法問題				

学習の目標	1 英語を理解し英語で表現しようとする、コミュニケーションへの積極的な態度を養います。 2 英語を読んだり聞いたりしたことに対する自分の感想をまとまりのある英文で表現できる理解力と表現力を習得します。 3 基本的な構文や文法、語彙を習得します。CEFRのB1以上の取得を目標とします。
学習の方法	・授業は、教科書の文章を読んでもおくことが前提になります。授業中の言語活動に参加できるよう、音読と大まかな内容把握をした上で授業に臨みましょう。自分の力で取り組む習慣を継続しましょう。 ・英語を読んだり聞いたりしたときや英語で自分の意見を表現するときに、分からないことがあれば、辞書や文法書を利用して、自分で調べるようにしましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	Lesson 1 Energy Lesson 2 Environment and Life Lesson 3 Health and Life Lesson 4 Humans and Technology	・温室効果ガスに関するグラフを読み取り、二酸化炭素の排出量を削減する方法について自分の考えを書きます。 ・地球温暖化について、写真やグラフを見ながら、自分の考えや意見を伝えあうことができるようになることを目標とします。 ・環境に関するSDGsへの興味や関心の高さを表すグラフの特徴を読み取り、SDGsを促進する方法について自分の考えを書きます。 ・自然保護について、写真やグラフなどのスライドを使って発表することができるようになることを目標とします。 ・健康のためにすべきこと、すべきでないことについての話し合いをもとに、どのように健康的な生活を送るかについて自分の考えを書きます。 ・日本人の睡眠時間について、グラフを見ながら、状況を説明したり、自分の考えや意見を理由を付けて伝えることができるようになることを目標とします。 ・対面とオンラインでのコミュニケーションを比較し、コミュニケーション技術が人を孤独にするかどうかについて、自分の考えを書きます。 ・インターネットの良い点と悪い点について自分の考えや意見を理由を付けて伝えることができるようになることを目標とします。
2 学期	Lesson 5 Diversity Lesson 6 Education Lesson 7 Miracles of Nature Lesson 8 Sustainable Development	・講演の案内を読んで、多様性を尊重する社会にするために、どちらの講演内容がより役立つかについて、自分の考えを書きます。 ・家事労働時間の男女差について、棒グラフやグラフを見ながら、自分の考えや意見を、理由を付けて詳しく伝えあうことができるようになることを目標とします。 ・オンライン大学と海外留学のメリットとデメリットを比較し、ロールプレイで相手を説得する活動を行います。 ・大学進学の意味について、まとまりのある文章で、自分の考えを詳しく書くことができるようになることを目標とします。 ・生物の持つ驚くべき能力の中から、どのような能力を人間生活に生かしたらよいのかについて話し合います。 ・社会支援プロジェクトについての英文を読み、理由を示しながら、まとまりのある文章で、自分の考えを詳しく書くことができるようになることを目標とします。 ・昔と今の生活を比較して、科学技術によって私たちの生活が環境に優しいものになったかについて、自分の考えを書きます。 ・食品廃棄物について、グラフを参考にしながら、自分の考えや意見を、理由を付けて詳しく伝えあうことができることを目標とします。
3 学期	Lesson 9 Art and Heart Lesson 10 Human Relationships	・音楽を聞きながら勉強することに対する賛成意見と反対意見を考え、それに対する自分の意見を書きます。 ・読んだ物語について、場面に合う表現を使って、登場人物の考えや気持ちを伝えあうことができるようになることを目標とします。 ・高校生活で思い出に残ったイベントについて話し合い、ロールプレイで相手にインタビューを行います。 ・高校生活の思い出に関する質問について、準備しなくても自分の考えや気持ちを答えることができるようになることを目標とします。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常会話や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	定期考査、パフォーマンステスト、小テスト	定期考査、パフォーマンステスト、レポート課題	言語活動への参加状況、パフォーマンステスト

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	外国語	科 目	論理・表現Ⅱ	学年 学科 類型	3年 商業科 会計ビジネスコース
単位数	3	教科書	Vision Quest English Logic and Expression Ⅱ Ace(啓林館)		
副教材等	Vision Quest総合英語 Ultimate 2nd Edition、英単語ターゲット1900、UPGRADE英文法・語法問題				

学習の目標	1 英語で表現しようとする、コミュニケーションへの積極的な態度を養います。 2 より高度な表現や構文・文法を習得し、英文の内容や相手の意図を正しく理解し、自分の考えを効果的に表現できる英語力を身に付けます。 3 CEFRのB1以上の取得を目標とします。
学習の方法	・授業は、教科書の練習問題などを解答しておくことが前提になります。授業中の言語活動に参加できるよう、自分の力で解答する習慣を継続しましょう。 ・英語を読んだり聞いたりしたときや自分の意見を表現するときに、分からないことがあれば、辞書や文法書を利用して、自分で調べてみるようにしましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	Lesson 1 What is your future goal? Lesson 2 What school events do you have? Lesson 3 Who is the best athlete? Lesson 4 Is social media safe?	・子供の理想の仕事について書かれた文章を読んで、適切な主語の使い方を理解します。 ・学校で新しい友達を作る方法について書かれた文書を読んで、適切な動詞の使い分けについて理解します。 ・スポーツの歴史について書かれた文章を読んで、時を表す表現の概念を理解します。 ・ソーシャルメディアの使用で気を付けるべき点について書かれた文章を読んで、様々な助動詞の概念と文の構造を理解します。
2 学期	Lesson 5 How does overusing energy affect us? Lesson 6 What are some culture differences? Lesson 7 Do all Japanese people need to speak English? Lesson 8 Is Japan open enough? Lesson 9 What if you were rich? Lesson 10 How might AI affect our lives?	・エネルギーの使い過ぎについて書かれた文章を読んで、名詞を修飾して情報を追加する様々な文の構造を理解します。 ・異文化理解の重要性について書かれた文章を読んで、関係詞によって情報が追加された文の構造を理解します。 ・第二か国語や外国語としての英語について書かれた文章を読んで、語句や文を修飾して情報を追加する様々な文の構造を理解します。 ・日本の社会の問題点について書かれた文章を読んで、直接話法と間接話法を用いて表した文の構造を理解します。 ・もし億万長者になったら、何をするかについて書かれた文章を読んで、仮定の概念と文の構造を理解します。 ・AIと共存する方法について書かれた文章を読んで、数量を表す表現の概念と文の構造を理解します。
3 学期	Lesson 11 What is a healthy life? Lesson 12 What is important when we sell chocolate?	・健康とストレスについて書かれた文章を読んで、比較を表す表現を用いた文の構造を理解します。 ・商品の販売について書かれた文章を読んで、否定を表す表現を用いた文の構造を理解します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価 方法	定期考査、パフォーマンステスト、小テスト	定期考査、パフォーマンステスト、レポート課題	言語活動への参加状況、パフォーマンステスト

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	家庭	科 目	家庭総合	学年 学科 類型	3年 商業科(情報・地域)
単位数	2	教科書	高等学校 家庭総合 持続可能な未来をつくる（第一学習社）		
副教材等	家庭科ノート・調理実習ノート基礎編（愛媛県家庭科教育研究会）				

学習の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育てることを目標とします。
学習の方法	家庭科ノート、調理実習ノート、資料等を用いて授業を行います。実験・実習を活用し、実際の生活で実践できるように、生活との関わりを意識しながら進めていきます。講義や実習・グループ活動等意欲的に取り組み、授業内容を参考にしながら、生活の中での問題点を発見し、自分で解決できる能力を身に付けていきましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	5 章 食生活をつくる	・食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化など、食と人とのかかわりについて理解します。 ・ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解します。 ・食品の調理上の性質、食品衛生について科学的に理解し、健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現できるようにします。 ・目的に応じた調理に必要な技能を身に付けることができるようにします。
2 学期	2 章 次世代をはぐくむ	・乳幼児期の心身の発達と生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解します。 ・乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けることができるようにします。 ・子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見だし、考察したことを論理的に表現できるようにします。
3 学期	7 章 住生活をつくる	・ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解します。 ・住居の機能や快適性、住居と地域社会との関わりについて問題点を見だし、考察したことを論理的に表現できるようにします。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
評価方法	単元テスト、定期考査、小テスト、ノート、ワークシート、発表、実習	単元テスト、定期考査、ノート、ワークシート、課題、発表、実習	ノート、行動観察、課題、出席状況、発表、実習

（備考） 1 1,2学期の定期考査は、期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。

令和8年度 シラバス

教 科	商 業	科 目	課題研究	学年	学科	類型	3年	商業科
単位数	3	教科書						
副教材等								

学習の目標	1 自らの課題の設定、学習計画の立案・研究を行い、実践することにより、計画力、実践力、問題解決能力を身に付けます。 2 日商簿記検定2級の合格を目標に、自主的・計画的に学習を進めます。
学習の方法	日商簿記検定2級の取得を目指し、講義をもとに、基本的な内容から応用的な内容まで幅広く学習を進め、多くの問題を解きながら理解力を深めていきます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	1 商業簿記 重要仕訳問題 2 商業簿記 個別論点問題	・2年次までに学習した簿記・会計の知識をもとに、日商簿記検定で必要とされる力の定着を図ります。また、苦手部分の克服に力を入れ、得点力向上につなげていきます。 ・固定資産、有価証券、商品売買、預金調整、株主資本などの個別的論点について重点的に学習を進め、より理解を深め、応用的な出題に対応できる力を身に付けていきます。
2 学期	3 商業簿記 決算問題 4 工業簿記 演習問題	・精算表の作成、貸借対照表の作成、損益計算書の作成が正確にできる力を身に付けます。そのためには、簿記の一連の流れを正確に理解した総合的な力を身に付けます。 ・個別原価計算、総合原価計算、標準原価計算、直接原価計算、本社・工場の取引、製造原価報告書などについて、2年次の原価計算の学習を基礎として、演習を繰り返すことによって、検定に対応できる力を身に付けます。
3 学期	5 模擬問題・過去問題	・検定試験の直前準備として、問題演習を繰り返し、検定試験に備えます。

評価の観点と方法

	① 知識・技術	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	商業の各分野について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価 方法	・課題、小テスト、グループ研究、グループ討議、学習プリント	・課題、小テスト、グループ研究、グループ討議、学習プリント	・課題、小テスト、グループ研究、グループ討議、行動の観察、学習プリント

令和8年度 シラバス

教 科	商 業	科 目	課題研究	学年 学科 類型	3年 商業科
単位数	3	教科書			
副教材等					

学習の目標	1 コンピュータシステムやシステム開発・企業活動・関連法案に関する知識を身に付けます。 2 アルゴリズムを理解するためにプログラミング言語や流れ図や関連知識を深く学び、考えたり創造的に解決したりする力を養います。 3 現代のICTの発達に対応できるよう、専門的な知識と技能を身に付けるために主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。
学習の方法	この授業では、基本情報技術者試験の合格を目指して、関連知識の習得を行います。テーマがコンピュータ関係のみならず、会計やセキュリティや法律などまで及ぶので、ノートづくりや定着度確認の話し合いで、時期に応じて各分野ごとにきめ細かく勉強していきます。副教材や過去問題を活用し、学習の進み具合と苦手な分野の理解とを確認しつつ、資格試験の合格の可能性を高めていきます。毎日の授業に集中して取り組みましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	1 ストラテジ系	・企業活動や経営管理に関する基本的な考え方を学習します。 ・知的財産権にはどのような種類があり、何が法律で守られ、どのような行為が違法に当たるのかを理解します。 ・身近な労働関連法規の概要を理解します。 ・オフィスツール(ソフトウェアパッケージ)を身近な業務に適用します。 ・システム開発のプロセスの基本的な流れを理解します。 ・プロジェクトマネジメントのプロセスの基本的な流れを理解します。 ・ITサービスマネジメントの意義、目的、考え方を理解します。 ・企業などにおける内部統制、ITガバナンスの目的、考え方を理解します。 ・小テスト、発表、記録表を利用します。
2 学期	2 テクノロジ系 3 マネジメント系	・基数の基本的な考え方を理解します。 ・確率と統計の基本的な考え方を理解します。 ・情報のデジタル化の基本的な考え方を理解します。 ・アルゴリズムと流れ図の基本的な考え方と表現方法を理解します。 ・プログラム言語とプログラミングの役割を理解します。 ・コンピュータの基本的な構成と役割を理解します。 ・オペレーティングシステムの必要性、機能性、種類を理解します。 ・ファイル管理の考え方を理解し、基本的な機能を利用します。 ・コンピュータの種類と特徴を理解します。 ・ヒューマンインタフェースの特徴を理解します。 ・マルチメディア技術の応用目的や特徴を理解します。 ・小テスト、発表、記録表を利用します。
3 学期	4 総合問題	・過去の問題を活用し、問題を解いていきます。 ・小テスト、発表、記録表を利用します。

評価の観点と方法

	① 知識・技術	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	コンピュータシステムやシステム開発・企業活動・関連法案に関する知識を身に付けている。	アルゴリズムを理解するためにプログラミング言語や流れ図や関連知識を深く学び、考えたり創造的に解決しようとしている。	現代のICTの発達に対応できるよう、専門的な知識と技能を身に付けるために主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価 方法	課題プリント、小テスト、実習、パフォーマンス評価	行動の観察、課題プリント、小テスト、パフォーマンス評価	行動の観察、実習、課題プリント

令和8年度 シラバス

教 科	商 業	科 目	課題研究	学年 学科 類型	3年 商業科
単位数	3	教科書			
副教材等					

学習の目標	1 地元「宇和島市」の文化や歴史、観光などについて、各班別にテーマを設定して調査・研究を行います。また、各種イベントへの参加、各種コンテストへの応募を通して地域に貢献できる活動を行います。 2 問題を解決しようとする意欲を高め、自信を持って社会生活を営めるように「生きる力」を養います。
学習の方法	・扱う問題毎にテーマを設定して、問題の種類ごとに調査・研究を進めます。 ・マルチメディアを利用して表計算ソフト、文書作成ソフト、プレゼンテーションソフトによる資料作成やインターネットを利用して大学や企業のビジネス手法の調査研究を行います。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	宇和島市についての調査研究	・宇和島地域の歴史・文化・観光について、各班で課題を設定して、調査研究を行います。 ・地域経済分析システム（RESAS）を活用した施策の立案・実行・検証を行います。 ・行動の観察、実習日誌、研究成果プリント ・実地調査や企業訪問等の実施を行うことで、地域の課題を追究していきます。 ・行動の観察、課題プリント、作品制作、発表
2 学期	宇和島市についての調査研究	・各種コンテストへの応募やイベントの開催やイベントへの出店を行います。 ・行動の観察、実習日誌、作品制作 ・行動の観察、課題プリント、作品制作、発表、ループリック評価
3 学期	宇和島市についての調査報告	・1、2学期に実践した内容をまとめ、成果報告会の原稿を作成します。また、報告会を実施することで、宇和島地域の良さを再確認します。 ・行動の観察、課題プリント、作品制作、発表、ループリック評価

評価の観点と方法

	① 知識・技術	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	宇和島市について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。	宇和島市に関する課題を発見し、宇和島市の地域貢献に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、宇和島市の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価方法	・課題プリント、調査・研究レポート、発表	・発表、作品、ループリック評価	・行動の観察、実習レポート、発表、ループリック評価

（備考） 1 定期考査は実施しないが、単元ごとに課題レポート、発表の評価を実施する。

令和8年度 シラバス

教科	商業	科目	マーケティング	学年	学科	類型	3年 商業科 情報ビジネスコース
単位数	3	教科書	マーケティング（実教出版）				
副教材等	マーケティング準拠問題集(実教出版)、全商商業経済検定模擬試験問題集1・2級マーケティング(実教出版)						

学習の目標	1 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通じて、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成して、マーケティングに関する体系的な知識と技術を習得します。 2 マーケティングに関連する職業への認識を深め、進路選択の幅を広げる中で、マーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身に付けます。
学習の方法	・全商商業経済検定1級合格を目指し、講義をもとに、問題を解きながら理解力を深めていきます。冬休みの課題等で、模擬問題を解いて実践力を身に付けていきます。 ・現代市場に目を向け、マーケティングに関心を持ち、他の商業科目との関連性を意識しながら学習を進めてください。 ・地域でのフィールドワーク、地域人材による講演会を実施し、実践的なマーケティングを学ぶ。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1章 マーケティングの概要 第2章 消費者行動の理解 第3章 市場調査	・現代市場の特徴を理解し、マーケティングの考え方や手順について学習し、現代市場における消費者保護や環境問題、法令遵守、企業の社会的責任などの重要性について学習します。 ・市場調査の意味・手順、実態調査の方法、市場調査の実習などについて学習します。 ・消費者行動と購買、購買意思決定過程、製品のライフサイクルと普及について学習します。
2 学期	第4章 STP 第5章 製品政策 第6章 価格政策 第7章 チャネル政策	・STP分析を理解し、関連する技術を学習し、課題を発見して科学的な根拠に基づいてその解決方法を学習します。 ・製品政策について企業における事例と関連付けて学習します。製品政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、製品政策を立案して実施し、評価・改善するように学習します。 ・価格政策について企業における事例と関連付けて理解学習します。価格政策に対する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、価格政策を立案して実施し、評価・改善を学習します。 ・チャネル政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、価格政策を立案して実施し、評価・改善を学習します。 ・販売価格の意味・種類と構成・決定要因、価格戦略の意味や卸売価格政策、小売価格政策、新製品を発売する差異の価格政策などについて学習します。
3 学期	第8章 プロモーション政策 第9章 マーケティングのひろがり	・プロモーション政策について企業における事例と関連付けて学習します。プロモーション政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、プロモーション政策を立案して実施し、評価・改善するように学習します。 ・マーケティングの広がりについて企業における事例と関連付けて学習します。マーケティングの広がりに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に学習します。 ・販売促進の重要性、広告、販売員活動、ブランド、信用販売、その他の販売促進について学習します。 ・検定試験に合格するため、多くの問題に取り組んでいきます。

評価の観点と方法

	① 知識・技術	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	企業における事例などの実際のマーケティングと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングに関する知識と技術を身に付けている。	マーケティングに関する情報の分野に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて顧客についての理解、市場の動向、マーケティングに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫して課題を解決している。	マーケティングについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者との信頼関係を構築して積極的に関わり、市場調査の実施と情報分析、製品政策、チャネル政策、プロモーション政策の企画と実施など責任をもって取り組んでいる。
評価 方 法	課題プリント、ノート、小テスト、確認テスト、ワークシート、レポート、定期考査	行動の観察、発表、小テスト、定期考査、パフォーマンス評価	・行動の観察、課題プリント、ノート、小テスト、模擬問題、定期考査

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教科	商業	科目	商品開発と流通	学年 学科 類型	3年 商業科 情報ビジネス・地域ビジネスコース
単位数	3	教科書	商品開発と流通（実教出版）		
副教材等	商品開発と流通準拠問題集(実教出版)				

学習の目標	1 商業開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けます。 2 商品開発と流通に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を学びます。 3 ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、商品開発と流通に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けます。
学習の方法	・商品開発と流通に必要な基礎知識を具体的な事象や事例を通して学習します。 ・商品開発と流通に関する課題を発見します。また、実際の企業の事例なども利用し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養います。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1章 商品開発と流通の概要 第2章 商品の企画	- 商品の成り立ち及びその捉え方について理解します。 - 商品開発の意義、新商品の捉え方、商品ライフサイクルについて理解します。 - 商品開発の手順について理解し、学習の見通しをたてます。 - 流通の仕組みについて、事例を調査して考察します。 - 市場環境とマーケティングの変化、流通チャンネルの多様化について理解します。 - 商品の企画について必要な環境分析について、企業における事例と関連付けて理解します。 - 商品コンセプトの内容について理解するとともに、ブレインストーミングなどの技法を用いて、商品企画につながるアイデアを考えます。
2 学期	第3章 事業計画の立案 第4章 商品の開発	- 商品開発と流通における事業計画について、その目的や手順について理解します。 - 競争環境や需要予測等に基づいた、価格の設定の考え方を理解します。 - 流通チャンネルの種類と特徴について理解します。 - 商品仕様と詳細設計について、企業における事例と関連付けて理解します。 - パッケージに必要な機能、要素等について考察し、パッケージ デザインを行います。
3 学期	第5章 商品の販売 第6章 商品と流通に関わる新たな展開	- 販売員活動について、プロセス、役割等を理解します。 - セールスプロモーションについて理解し、企業における具体的な事例と関連付けて分類します。 - 顧客のニーズの多様化から、デザイン思考について企業における具体的な事例と関連付けて理解します。 - 流通の新たな展開として情報システムの変化が流通に影響を及ぼしていることを理解します。

評価の観点と方法

	① 知識・技術	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解し、商品の企画からプロモーションまでの様々な場面で役に立つ商品開発に関する知識と、流通の立場から捉えた取引対象としての商品に関する知識を身に付けている。	商品開発と流通をはじめとした様々な知識や情報などを活用し、商品開発と流通の動向や課題を発見するとともに、ビジネスに関わる様々な立場に立って、妥当と課題の視点から、科学的な根拠に基づいて商品開発と流通に関する計画を立案したりね提案している。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら商品開発と流通について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、商品開発と流通に関する学習活動に責任をもって取り組んでいる。
評価方法	課題プリント、ノート、小テスト、確認テスト、ワークシート、定期考査	課題プリント、ノート、小テスト、確認テスト、ワークシート、定期考査	課題プリント、ノート、小テスト、ワークシート、模擬問題

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和7年度 シラバス

教 科	商 業	科 目	観光ビジネス	学年 学科 類型	3年 商業科地域ビジネスコース選択
単位数	3	教科書	観光ビジネス（実教出版）		
副教材等	観光ビジネス準拠問題集(実教出版)				

学習の目標	1 観光の仕事がどう動いているかを分かりやすく学び、実際に使えるスキルを身に付けます。 2 観光に関わる問題を自分で見つけ、根拠をもって工夫しながら解決する力を伸ばします。 3 観光ビジネスをより良くするために、自分から学び、仲間と協力して取り組む姿勢を育てます。
学習の方法	・企業における事例など実際の観光ビジネスと関連付けて、ビジネスの様々な場面で役に立つ観光ビジネスに関する知識と技術を学習します。 ・課題を発見して、観光ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善が必要な事例など科学的な根拠に基づいて解決する力を学習します。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1章 観光ビジネスの概要 第2章 観光ビジネスの主な産業	・観光とビジネスとの関係や観光ビジネスの概要について学びます。 ・観光ビジネスの意義と課題について、日本における経済の発展と関連付けて学びます。 ・観光ビジネスについて自らの考えを持ち、主体的に他者と協働する力を身に付けます。 ・観光ビジネスの産業について、役割や業務などの概要や関連する法規の概要について理解します。
2 学期	第3章 観光ビジネスのマーケティング 第4章 観光資源の発見と活用 第5章 地方自治体の観光政策	・観光ビジネスのマーケティングについて企業における事例と関連付けて学びます。 ・観光ビジネスのマーケティングに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて計画を立案・実行し、評価・改善することについて学びます。 ・観光ビジネスのマーケティングについて自ら学び、経済や消費者の動向などから主体的に他者と協働する力を身に付けます。 ・観光資源と観光政策について、企業における事例と関連付けて学びます。 ・観光資源の活用に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて計画を立案・実行し、評価・改善することについて学びます。 ・観光資源と観光政策について自ら学び、経済や消費者の動向などから、観光資源の効果的な活用について主体的に他者と協働する力を身に付けます。
3 学期	第5章 観光ビジネスと観光まちづくり	・観光による地域の活性化について企業における事例と関連付けて学びます。 ・観光による地域の活性化に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて計画を立案・実行し、評価・改善することについて学びます。 ・観光による地域の活性化について自ら学び、観光ビジネスについて主体的に他者と協働する力を身に付けます。

評価の観点と方法

	① 知識・技術	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	企業における事例など実際の観光ビジネスと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ観光ビジネスに関する知識と技術を身に付けている。	観光ビジネスをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、観光ビジネスに関する課題を発見して、顧客についての理解、市場の動向、観光ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善が必要な事例など科学的な根拠に基づいて解決することについて考えている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指し、観光ビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員としての役割を認識して、観光資源の効果的な活用、マーケティング、観光の振興策の考案と実施などに責任を持って取り組んでいる。
評価 方 法	定期考査、小テスト、課題プリント	定期考査、小テスト、課題プリント、ポートフォリオ評価	行動の観察、課題プリント、ノート、小テスト、調査発表

（備考） 1、2学期の定期考査は、期末に行う。

令和8年度 シラバス

教 科	商 業	科 目	ビジネス・マネジメント	学年	学科	類型	3年 商業科 情報ビジネス・地域ビジネスコース
単位数	3	教科書	ビジネス・マネジメント（実教出版）				
副教材等	ビジネス・マネジメント準拠問題集(実教出版)						

学習の目標	1 ビジネスでマネジメントがどんな役割をしているのかを分かりやすく学び、その大切さを理解します。 2 マネジメントに関わる問題を自分で見つけ、根拠をもって工夫しながら解決するための基礎知識を身に付けます。 3 より良いビジネスを行うために、自分から学び、仲間と協力しながらマネジメントに取り組む姿勢を育てます。
学習の方法	・企業の実例と結びつけて、ビジネスで役立つマネジメントの知識を学びます。 ・理論やデータ、成功例などをもとに、根拠を持って問題を解決する力を身につけます。 ・組織の一員としての役割を意識し、仲間と信頼関係を築きながら責任をもってマネジメントに取り組む姿勢を育てます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1章 ビジネスの創造 第2章 ビジネスの組織化	・ビジネスにおけるマネジメントの概要について学習します。 ・マネジメントの意義と課題について自らの考えを持ち、ビジネスの適切な展開と関連付けて学びます。 ・マネジメントについての意識と意欲を高め、組織の一員として他者と協働する力を身に付けます。 ・組織のマネジメントについて企業における事例と関連付けて理解します。 ・組織のマネジメントに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、組織の管理と活性化の方策を考案して実施し、評価・改善について学習します。 ・組織のマネジメントについて自ら学び、組織の一員として組織の適切な管理と活性化について、他者と協働する力を身に付けます。
2 学期	第3章 経営資源のマネジメント 第4章 ビジネスの変革	・経営資源のマネジメントについて企業における事例と関連付けて学びます。 ・経営資源のマネジメントに関する課題を発見し、それを踏まえ科学的な根拠に基づいて、経営資源の管理と活用の方策を考案して実施し、評価・改善について学びます。 ・経営資源のマネジメントについて自ら学び、経営資源の適切な管理と効果的な活用について、他者と協働する力を身に付けます。 ・ビジネスの創造と展開について企業における事例と関連付けて学びます。 ・ビジネスの創造と展開に関する課題を発見し、それを踏まえ科学的な根拠に基づいて、ビジネスの創造と展開に関する計画を立案して実施し、評価・改善について学びます。 ・ビジネスの創造と展開について自ら学び、プロジェクトを適切に管理し、ビジネスの創造と展開について、他者と協働する力を身に付けます。
3 学期	第5章 ビジネスと社会	・企業の秩序と責任について企業における事例と関連付けて学びます。 ・企業の秩序と責任に関する課題を発見し、それを踏まえ科学的な根拠に基づいて、企業の秩序の維持と責任を果たす方策を考案して実施し、評価・改善について学びます。 ・企業の秩序と責任について自ら学び、企業の秩序を維持し、責任を果たすことについて他者と協働する力を身に付けます。

評価の観点と方法

	① 知識・技術	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つマネジメントに関する知識を身に付けている。	ビジネスにおけるマネジメントと様々な知識を活用し、ビジネスにおけるマネジメントに関する課題を発見し、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、経済社会の動向やマネジメントに関する理論、データなどの科学的な根拠に基づいて工夫して、よりよく解決するように考えている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指し、自らマネジメントについて学ぶ態度及び組織の一員としての役割を認識して、経営資源のマネジメントや新たなビジネスの創造と展開などに責任を持って取り組んでいる。
評価 方法	課題プリント、ワークシート 確認テスト、レポート 定期考査	行動観察、発表、小テスト ワークシート、定期考査	行動の観察、課題プリント ワークシート、小テスト 調査発表

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	商 業	科 目	グローバル経済	学年 学科 類型	3年 商業科 会計ビジネスコース
単位数	2	教科書	グローバル経済(実教出版)		
副教材等	グローバル経済問題集				

学習の目標	1 経済のグローバル化について実務に即して体系的・系統的に理解するように学習します。 2 経済のグローバル化への対応に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養います。 3 ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、グローバル化する経済社会におけるビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。
学習の方法	・経済のグローバル化について実務に即して体系的・系統的に理解するよう学習します。 ・経済のグローバル化への対応に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養います。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1章 グローバル化が進展する社会 第2章 経営のグローバル化	・グローバル化と国際化の違いについて理解し、グローバル化する現代の社会について学びます。 ・グローバル経営を進めるにあたって求められる企業の社会責任について学びます。 ・多国籍企業のグローバル経営について理解し、企業がグローバル化する理由について学びます。 ・金融、企業、社会の多様性とグローバル化の関連について、具体的に見ていきます。 ・グローバル化によってどのような経済発展に結びつくのかを学びます。
2 学期	第3章 経済のグローバル化 第4章 市場と経済	・グローバル化と国際化の違いについて理解し、グローバル化する現代の社会について学びます。 ・グローバル経営を進めるにあたって求められる企業の社会責任について学びます。 ・多国籍企業のグローバル経営について理解し、企業がグローバル化する理由について学びます。 ・金融、企業、社会の多様性とグローバル化の関連について、具体的に見ていきます。 ・グローバル化によってどのような経済発展に結びつくのかを学びます。 ・経済のグローバル化における人材の状況を外国人労働者や賃金の観点を含めて学びます。 ・自由貿易と国際分業の観点をもとに、経済のグローバル化における財のやり取りに関して、二国間の協定や地域経済の意義を学びます。
3 学期	第4章 市場と経済	・需要と供給に着目した市場に関する理論について理解し、現実の社会における市場の役割と課題について学びます。 ・GDPについて理解し、マクロ的な視点から経済成長について学びます。 ・景気環境のしくみについて理解し、その弊害について考察し学びます。 ・経済政策における政府の役割について学び、現状と問題点について理解します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	企業における経済のグローバル化への対応など実務に関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ経済に関する知識を身に付けている。	経済のグローバル化をはじめとした様々な知識などを活用し、企業における経済のグローバル化への対応に関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響をふまえ、経済社会の動向、経済に関する倫理やデータ、ビジネスに関する成功事例や改善する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら経済について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者の信頼関係を構築して積極的に関わり、経済社会の動向を踏まえて経済のグローバル化に対応板ビジネスの展開に責任をもって取り組んでいる。
評価 方 法	課題プリント、ノート、小テスト、確認テスト、ワークシート、定期考査	課題プリント、ノート、小テスト、確認テスト、ワークシート、定期考査	課題プリント、ノート、小テスト、ワークシート、模擬問題

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	商 業	科 目	グローバル経済	学年 学科 類型	3年 商業科 地域ビジネスコース
単位数	3	教科書	グローバル経済(実教出版)		
副教材等	グローバル経済準拠問題集				

学習の目標	1 世界の経済がどのようにつながっているのかを、実際のビジネスの動きと結びつけて体系的に理解します。 2 グローバル化によって生まれる課題を自分で見つけ、根拠をもって創造的に解決する力を身に付けます。 3 変化する世界経済の中でビジネスを進めるために、自分から学び、仲間と協力しながら主体的に取り組む姿勢を育てます。
学習の方法	・経済のグローバル化について実務に即して体系的・系統的に理解するよう学習します。 ・経済のグローバル化への対応に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養います。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1章 グローバル化が進展する社会 第2章 経営のグローバル化	・グローバル化と国際化の違いについて理解し、グローバル化する現代の社会について学びます。 ・グローバル経営を進めるにあたって求められる企業の社会責任について学びます。 ・多国籍企業のグローバル経営について理解し、企業がグローバル化する理由について学びます。 ・金融、企業、社会の多様性とグローバル化の関連について、具体的に見ていきます。 ・グローバル化によってどのような経済発展に結びつくのかを学びます。
2 学期	第3章 経済のグローバル化 第4章 市場と経済	・グローバル化と国際化の違いについて理解し、グローバル化する現代の社会について学びます。 ・グローバル経営を進めるにあたって求められる企業の社会責任について学びます。 ・多国籍企業のグローバル経営について理解し、企業がグローバル化する理由について学びます。 ・金融、企業、社会の多様性とグローバル化の関連について、具体的に見ていきます。 ・グローバル化によってどのような経済発展に結びつくのかを学びます。 ・経済のグローバル化における人材の状況を外国人労働者や賃金の観点を含めて学びます。 ・自由貿易と国際分業の観点をもとに、経済のグローバル化における財のやり取りに関して、二国間の協定や地域経済の意義を学びます。
3 学期	第4章 市場と経済	・需要と供給に着目した市場に関する理論について理解し、現実の社会における市場の役割と課題について学びます。 ・GDPについて理解し、マクロ的な視点から経済成長について学びます。 ・景気環境のしくみについて理解し、その弊害について考察し学びます。 ・経済政策における政府の役割について学び、現状と問題点について理解します。

評価の観点と方法

	① 知識・技術	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	企業における経済のグローバル化への対応など実務に関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ経済に関する知識を身に付けている。	経済のグローバル化をはじめとした様々な知識などを活用し、企業における経済のグローバル化への対応に関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響をふまえ、経済社会の動向、経済に関する倫理やデータ、ビジネスに関する成功事例や改善する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら経済について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者の信頼関係を構築して積極的に関わり、経済社会の動向を踏まえて経済のグローバル化に対応板ビジネスの展開に責任をもって取り組んでいる。
評価方法	課題プリント、ノート、小テスト、確認テスト、ワークシート、定期考査	課題プリント、ノート、小テスト、確認テスト、ワークシート、定期考査	課題プリント、ノート、小テスト、ワークシート、模擬問題

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	商 業	科 目	ビジネス法規	学年 学科 類型	3年 商業科 地域ビジネスコース
単位数	3	教科書	ビジネス法規（実教出版）		
副教材等	ビジネス法規準拠問題集（実教出版）				

学習の目標	1 ビジネスに必要な法律の基礎知識を身に付け、社会で法律がどんな役割をしているのか理解します。 2 ビジネスに関わる問題を法律の視点から見つけ、よりよい解決に向けて考え判断できる力と姿勢を育てます。
学習の方法	・たくさん出てくる法律用語の中から、ビジネスに必要な基本用語をしっかりと確認します。 ・教科書や問題集の事例を使って、実際の経済の動きと結びつけながら法規を理解し、法律的に考え判断する力を伸ばします。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1章 法の概要	・ビジネスを適切に行うための法の役割について理解し、経済環境の変化に伴って法規の改正など行われている現状について学習します。 ・法律関係が権利・義務の関係で成り立っていること、物権や債権など財産権の概要について、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析・考察を行います。 ・財産権の変動や権利の発生・変更・消滅はほとんどが契約によって行われていることを理解し、契約の具体的な内容について学習します。
	第2章 権利・義務と財産権	
	第3章 財産権の変動	
2 学期	第4章 企業活動と法規	・株式会社の特徴、資金調達、金融取引など、企業活動の主体とその行為について学習します。 ・法令遵守と説明責任の意義、労働者の権利の保護、消費者の保護、情報の保護について、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて学習します。 ・公証制度、和解、調停及び仲介の目的、手続、効力、民事訴訟制度等、紛争の解決方法などについて理解を深めます。
	第5章 企業責任と法規	
	第6章 紛争の解決と予防	
3 学期	第7章 税と法規	・消費税の意義や種類、申告や納付のしくみなどについて学習します。

評価の観点と方法

	① 知識・技術	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解している。	法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠にもとづいて創造的に解決しようとしている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規に基づくビジネスに主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価 方 法	定期考査、小テスト、課題プリント	定期考査、小テスト、課題プリント、ポートフォリオ評価	行動の観察、パフォーマンス評価、課題プリント

- （備考） 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	商 業	科 目	財務会計Ⅰ	学年 学科 類型	3年 商業科 情報・地域ビジネスコース
単位数	3	教科書	財務会計Ⅰ（東京法令出版）		
副教材等	全商1級会計 完全段階式標準検定簿記問題集（東京法令出版）、全商簿記実務検定模擬試験問題集1級会計（実教出版）				

学習の目標	1 「簿記」の学習を基礎として、企業会計の役割や制度及び財務諸表の作成に関する基本的な知識を身に付け、財務諸表の必要性や役割について理解します。 2 財務諸表から得られる情報をビジネスの諸活動に活用する能力を身に付けます。
学習の方法	・財務諸表に関する基礎的・基本的な知識や技術を身に付けますが、その学習内容は「簿記」よりもさらに高度になるため、教科書や問題集を活用し、常に予習と復習を行うことを心掛けてください。 ・問題演習については、間違えたところを何回も復習し、疑問点や不明な点は積極的に質問して確実に解けるようにしてください。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第Ⅰ編 財務会計の基礎 第Ⅱ編 会計処理	・企業会計の意味や目的、財務会計の機能や企業会計制度の意味などを学習し、企業会計制度に関する理解を深めます。また、企業会計の歴史を通して、会計基準の必要性和今日の動向を学びます。 ・資産・負債・純資産の意味と種類を明らかにしていきます。具体的には当座資産・棚卸資産・固定資産について、それぞれの意味と種類を明らかにし、負債と純資産が企業にとっての調達資金であることを学びます。
2 学期	第Ⅲ編 財務諸表の作成 第Ⅳ編 財務諸表分析の基礎	・損益計算の意味を明らかにし、損益計算の基準や処理方法を修得します。また、販売形態や営業種目などの相違による収益認識基準を明らかにし、それぞれの基準による処理方法を考えます。 ・報告式の貸借対照表と損益計算書の作成方法について学習します。 ・財務諸表分析の意味を理解し、財務指標を組み合わせることで総合的に分析し、会計情報の効果的な活用について学習します。
3 学期	発展的な内容 連結会計	・連結財務諸表の意味と必要性を理解し、親会社と子会社の意味と連結の範囲を学習します。

評価の観点と方法

	① 知識・技術	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を身に付けている。	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価 方 法	定期考査、課題プリント、小テスト	定期考査、小テスト、パフォーマンス評価	行動の観察、パフォーマンス評価

- （備考） 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	商 業	科 目	財務会計Ⅱ	学年 学科 類型	3年 商業科 会計ビジネスコース
単位数	2	教科書	財務会計Ⅱ（実教出版）		
副教材等	財務会計Ⅱ 準拠問題集（実教出版）				

学習の目標	1 「簿記」や「財務会計Ⅰ」で学んだ内容を発展させ、企業会計のルールや会計処理を踏まえて、企業の経営判断を会計の視点から分析する力を身に付けます。 2 会計情報を正しく扱うために、自分で課題を見つけ、学びながら会計情報を提供・活用する力と姿勢を育てます。
学習の方法	・「財務会計Ⅰ」で学んだ内容を土台に、企業会計のルールや特殊な会計処理を学び、実際の財務諸表を使って多面的に分析・考察・発表を行います。 ・全商財務会計検定や日商簿記検定も意識し、問題演習を通して理解を深め、実践力を高めます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1編 総論－財務会計の基本概念と会計基準－ 第1章 財務会計の基本概念 第2章 資産負債アプローチと収益費用アプローチ 第3章 会計基準の国際的統合 第2編 各論〔1〕－財務会計の実際－ 第4章 資産会計 第5章 負債会計 第6章 純資産会計	・財務会計の基本概念とは何か。わが国の会計基準にはどのような特徴がありどのように国際化に対応してきているかを学習します。 ・貸借対照表に関する各種の会計処理を行うために、さらに進んだ内容について学習します。（資産会計、負債会計、純資産会計）
2 学期	第7章 損益会計 第8章 リース会計 第9章 税効果会計 第3編 各論〔2〕－企業活動の展開と財務会計－ 第10章 外貨換算会計 第11章 キャッシュ・フロー計算書 第4編 各論〔3〕－企業結合の会計－ 第12章 企業結合会計 第13章 連結財務諸表の作成（その1） 第14章 連結財務諸表の作成（その2） 第15章 持分法 第16章 連結税効果会計 第5編 財務諸表の活用 第17章 財務諸表の活用	・貸借対照表に関する各種の会計処理を行うために、さらに進んだ内容について学習します。（損益会計、税効果会計） ・適正な決算を行うために、海外取引や外貨建債権債務を含む財務諸表を円換算する方法を学習します。 ・適切な資金繰りを行うために必要な財務諸表のうちのキャッシュ・フロー計算書に関する内容を学習します。 ・企業結合とは何か。また、支配獲得日後に子会社株式を追加で取得した場合などにはどのような処理が行われるかを学習します。 ・企業グループの現状把握や企業価値の評価など、財務諸表の活用法について学習します。（実際の財務諸表や株価を参考に評価していく）
3 学期	第6編 監査と職業会計人 第18章 監査と職業会計人	・財務諸表の信頼性を高めるための監査についてのしくみや手続き、職業会計人の職務や社会的役割について学習します。

評価の観点と方法

	① 知識・技術	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業及び企業の経営判断を分析することができている。	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、国際的な会計基準を踏まえた適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価方法	定期考査、小テスト、課題プリント	定期考査、小テスト、課題プリント、ポートフォリオ評価	行動の観察、パフォーマンス評価、課題プリント

- （備考） 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	商 業	科 目	管理会計	学年 学科 類型	3年 商業科 会計ビジネスコース
単位数	2	教科書	管理会計（実教出版）		
副教材等	全商検定試験 管理会計論点別NEWステップアップ模擬＋過去問題集（T A C 出版）				

学習の目標	1 会計情報を使って経営を管理する方法を理解し、課題を見つけて根拠をもって解決する力を身に付けます。 2 よりよい経営管理のために、自分から学び、会計情報を活用する姿勢を育てます。
学習の方法	・この科目は「原価計算」の内容を修得していることを前提としています。管理会計について実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、経営管理に関連する知識や技術を身に付けます。 ・全商管理会計検定や日商簿記検定も視野に入れ、問題を解きながら理解力を深めていきます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1編 管理会計と経営管理 第1章 管理会計の意義と目的 第2章 管理会計と原価計算 第3章 標準原価計算 第4章 直接原価計算 第5章 直接標準原価計算 第2編 短期利益計画 第6章 短期利益計画と原価予測 第7章 CVP分析と損益分岐点 第8章 感度分析 第9章 最適セールス・ミックスの決定	・管理会計が、財務会計とともに企業会計を支える重要な役割を担っていることを理解し、管理会計を理解するにあたって必要な基礎的な知識について学習します。 ・利益計画の策定に必要な概念および手続きについて学習し、あわせて利益計画の最終段階ともいえる予算編成へとつながるための各種の分析手法を学習します。
2 学期	第3編 企業予算 第10章 企業予算の編成 第11章 予算統制 第4編 責任会計と業績評価 第12章 組織構造と責任センター 第13章 セグメント別業績評価 第5編 経営意思決定と管理会計 第14章 経営意思決定の意義とタイプ 第15章 関連原価分析 第16章 設備投資の経済性計算	・予算編成と予算統制とに分けて、それぞれの手続きを検討するとともに、企業予算の果たす役割について学習します。 ・組織の業績管理に果たす責任会計の役割について学習します。 ・まず意思決定そのものについて学習し、その後、構造的な意思決定と業務的意思決定に関連する管理会計手法について学習します。
3 学期	第6編 コスト・マネジメント 第17章 戦略的コスト・マネジメントの意義と手法 第18章 目標原価計算 第19章 活動基準原価計算 第20章 品質原価計算 第21章 ライフサイクル・コストニング	・1980年代以降に注目されるようになった比較的新しい各種の管理会計手法で、より直接的に戦略の策定の前提となる意思決定を支援することを意図した「戦略的コスト・マネジメント手法」について学習します。（目標原価計算、活動基準原価計算、品質原価計算、ライフサイクル・コストニング）

評価の観点と方法

	① 知識・技術	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	管理会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	会計情報を活用した経営管理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、経営管理に有用な会計情報を提供したり、その情報を活用したりすることができている。	適切な経営管理を行う力の向上を目指して自ら学び、経営管理に有用な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価方法	定期考査、小テスト、課題プリント	定期考査、小テスト、課題プリント、ポートフォリオ評価	行動の観察、パフォーマンス評価、課題プリント

- （備考） 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	商業	科 目	ネットワーク活用	学年 学科 類型	3年 商業科 情報ビジネスコース
単位数	3	教科書	ネットワーク活用（実教出版）		
副教材等					

学習の目標	1 ビジネスでのインターネット活用について体系的に理解し、実務で役立つ技術を身に付けます。 2 インターネット活用に関する課題を見つけ、根拠をもって創造的に解決する力を養います。 3 企業活動をより良くするために、自分から学び、協力しながらインターネット活用に取り組む姿勢を育てます。
学習の方法	この授業では、情報ビジネス科で2年間学んだ知識をもとに、インターネットや情報セキュリティについて深く学びます。また、電子商取引の概要やWebページの制作についての実習も行うことで、より実践的な活動も行います。定期考査だけでなく毎日の授業にも集中して取り組みましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	1章 情報通信技術の進歩とビジネス 1節 ICTにより創造される新しいビジネス 2節 個人情報と知的財産の保護 3節 関連法規とガイドライン 2章 情報コンテンツの制作 1節 図形と静止画 2節 音声と動画 3章 企業情報の発信とWebデザイン 1節 Webページの制作とデザイン	・情報通信技術の進歩に伴いビジネスの形態や組織内におけるビジネスの進め方が変化していることを学び、情報通信ネットワークをビジネスに活用することの重要性を学びます。 ・図形と静止画の情報コンテンツについて、利用方法や表現方法などの基礎的な知識を理解するとともに、それらを作成・編集するための基本的な技術を学習します。 ・Webページの制作とデザインについて理解するとともに、一般的なWebページ制作手順を理解し、Webページ制作について必要な基本的な知識と技術を学習します。
2 学期	3章 企業情報の発信とWebデザイン 2節 Webページ制作の基礎 3節 Webページ制作の応用 4章 インターネットと情報セキュリティ 1節 インターネットのしくみ 2節 ハードウェアとソフトウェアの導入 3節 情報セキュリティの確保 5章 電子商取引とビジネス 1節 ネットワークを用いたビジネスと電子決済	・タグの直接入力による基本的なWebページ制作のための知識と技術を学習します。 ・CSSとJavaScriptを用いて、目的に応じた適切なWebページを制作する知識と技術を学びます。 ・インターネットの仕組み、ビジネスにおいてインターネットを活用する利点及びインターネットサービスプロバイダの役割と業務について学習します。 ・ビジネスにおいてインターネットを活用する際の情報セキュリティの確保について、企業における具体的な事例を学びます。
3 学期	5章 電子商取引とビジネス 2節 電子商取引サイトの開店準備 3節 Webページ制作と集客方法 4節 ビジネスの創造	・電子商取引の意義や役割について学びます。 ・企業間取引、企業対消費者間の商取引について学習し、情報通信ネットワークを活用したビジネスについて学習します。 ・代金決済方法について電子的データの交換を行う電子決済のしくみを学習します。 ・電子商取引サイト開業に必要な手順を理解させるとともに、店舗運営を行うための基礎的な知識を学習します。

評価の観点と方法

	① 知識・技術	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価 方 法	課題プリント、小テスト、実習、パフォーマンス評価、定期考査	行動の観察、課題プリント、小テスト、パフォーマンス評価、定期考査	行動の観察、実習、課題プリント

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	商業	科 目	ネットワーク管理	学年 学科 類型	3年 商業科 情報ビジネスコース
単位数	3	教科書	ネットワーク管理（実教出版）		
副教材等					

学習の目標	1 情報通信ネットワークの仕組みと活用を理解し、必要な技術を身に付けます。 2 ネットワークの課題を見つけ、根拠をもって創造的に解決する力を養います。 3 企業活動を高めるために、ネットワークと情報セキュリティ管理に主体的・協働的に取り組む姿勢を育てます。
学習の方法	この授業では、商業科で2年間学んだ知識をもとに、情報通信ネットワークや情報セキュリティについて深く学びます。また、情報通信ネットワークの構築や、情報資産を共有して企業活動を展開している具体的な事例と関連付けて理解します。定期考査だけでなく毎日の授業にも集中して取り組みましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	1 章 企業活動と情報通信ネットワーク 1 節 情報資産の共有の重要性 2 節 情報通信ネットワークの形態と通信 2 章 情報通信ネットワークの設計・構築と運用管理 1 節 情報通信ネットワークの設計方法 2 節 情報通信ネットワークのしくみと通信方法 3 節 ネットワーク機器	・情報通信ネットワークを活用してビジネスに関する情報やハードウェアなどの情報資産を共有することの重要性を学習します。 ・企業活動と情報通信ネットワークの関わりにおいて、情報資産を共有し保護する適切な環境を提供する活動について学習します。 ・情報共有の重要性について、情報通信ネットワークを構築し、情報資産を共有して企業活動を展開している具体的な事例と関連付けて学習します。 ・情報通信ネットワークに対する要求を分析し、ネットワークの構成、運用計画の策定など、情報通信ネットワークを設計する基礎的な方法について学習します。
2 学期	2 章 情報通信ネットワークの設計・構築と運用管理 4 節 情報通信ネットワークの構築方法 5 節 情報通信ネットワークの運用と障害対策 6 節 システム監査 3 章 情報セキュリティ 1 節 情報セキュリティ管理の目的と重要性	・情報通信ネットワークの構築に必要なネットワーク機器を導入するためのハードウェアの選定方法や、情報資産を共有するためのソフトウェアの導入や設定方法について学習します。 ・管理ツールやセキュリティポリシーによるネットワーク管理やユーザー管理などの運用管理の技法を習得する。また、サーバのパフォーマンス管理やバックアップの設定方法について学習します。 ・客観的な立場でシステム監査を行うことの重要性や具体的なシステム監査の実施手順や監査技法について学習します。 ・情報資産に対する脅威やリスクをしっかりと理解し、情報セキュリティ管理の目的と重要性について学習します。
3 学期	3 章 情報セキュリティ 2 節 人的対策 3 節 技術的対策 4 節 物理的対策	・情報セキュリティ啓発活動の重要性、内部不正や人的ミスによる情報の漏えいを防止する方策など人的対策及び人的要因により情報セキュリティ上の問題が発生した際の対応策について、具体的な事例と関連付けて分析し、学びます。 ・災害や事故の予防と発生時を想定した対策、機器の故障など物理的障害の予防と情報セキュリティ上の問題の発生を想定した対策、外部からの侵入の予防と情報セキュリティ上の問題の発生を想定した対策について学習します。

評価の観点と方法

	① 知識・技術	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	情報資産を共有し、保護する環境の提供について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	情報資産を共有し、保護する環境の提供に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、情報資産を共有し、保護する環境の提供に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	課題プリント、小テスト、実習、パフォーマンス評価、定期考査	行動の観察、課題プリント、小テスト、パフォーマンス評価、定期考査	行動の観察、実習、課題プリント

- (備考)
- 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。
 - 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教科	家庭	科目	フードデザイン	学年 学科 類型	3年 商業科(情報・地域)
単位数	3	教科書	フードデザイン（実教出版）		
副教材等	調理実習ノート専門編（愛媛県家庭科教育研究会）				

学習の目標	1 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を目指して自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。 2 実習を通して、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を身に付けます。
学習の方法	調理実習ノート、資料等を用いて授業を行います。栄養と調理の関連性を学び、実験・実習を活用し、実際の生活で実践できるように進めていきます。講義や実習・グループ活動等意欲的に取り組み、授業内容を参考にしながら、食生活における問題点を発見し、自分で解決できる能力を身に付けていきましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学 期	第1章 食生活と健康	- 食事の基本的な意義や現代の食に関する問題点を理解し、食事の大切さについて学びます。 - 食生活における環境保全、資源の有効活用について学び意識を高めます。
	第2章 栄養素の働きと食事計画	各種栄養素の特徴を理解し、食事計画にあたって食品摂取量のめやすを利用できるように学習します。
	第3章 食品の特徴・表示・安全	食品の特徴、調理上の性質、加工品について理解し、食事計画や調理に生かすことができるようにします。
2 学 期	第4章 調理の基本	調味、計量、食品の切り方、調理法の基礎、調理器具について具体的な知識と技術を身に付けます。
	第7章 食育	食育基本法や家庭、地域における食育推進活動について学習します。
	第5章 料理様式とテーブルコーディネート	日本料理、西洋料理、中国料理について、それぞれの特徴、手順、サービス、マナーについて学習します。また、和風、洋風、中国風ごとのテーブルコーディネートの特徴を知り、実際にコーディネートを実践します。
3 学 期	第6章 フードデザイン実習	- 食事のテーマに応じた献立作成、食品材料の選択と調理について計画し実践します。 - 行事食について学び、日本の伝統行事の継承や和風料理を伝承する能力を培います。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価 方 法	定期考査、実技テスト ノート、ワークシート 発表	定期考査、実習、課題 ノート、ワークシート 発表	ノート、行動観察、実習 課題、出席状況、発表

（備考） 1 1,2学期の定期考査は、期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 1,2学期に実技テストを行う。

令和8年度 シラバス

教 科	S S	科 目	地域探究	学年 学科 類型	3年 商業科
単位数	2	教科書	本校で作成したプリントおよび資料		
副教材等	本校で作成したプリントおよび資料				

学習の目標	1 身近な地域が抱える課題について、各科目で学んだ知識を生かし、解決につながる方法について考える力を身に付けていきます。 2 地域や地元の産業と連携した活動を通じて、筋道を立てて考え、適切に表現する力を身に付けていきます。 3 職業人として必要な人間性を高めたり、課題解決に積極的に取り組もうとする態度を身に付けていきます。
学習の方法	- 講演会やフィールドワーク等を通じて得た学びを生かし、科学的な手法を用いながら、地域課題の発見や解決に向けてアプローチします。 - 目標を明確にし、活動の記録をまとめていきます。蓄積した内容を基に、研究の成果や問題点、自己の成長を確認しながら課題解決に向けた研究を進めていきます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	1 課題研究 - 課題研究出品年間計画 作成 - 課題研究整理 - 追加研究	1、2年次の取組の課題を洗い出し、先行研究調査やデータ分析を行うことで事実に基づいた仮説を再設定し、研究計画を見直していきます。 - コンテストや発表会など外部への発信に備え、課題研究の成果をポスターや論文にまとめます。 - 新たに設定した仮説に対し、専門機関や企業から課題やプランの設定や研究手法に対して指導や助言をいただきながら、実践・検証する方法を決定していきます。
2 学期	2 キャリアデザイン探究① アントレプレナーシップ育成プログラム	- 大学や企業、行政と連携した、SDGsに関するディスカッションや課題研究発表を通じて、科学的探究力やコミュニケーション力を高めていきます。 - 地域に根差した企業等による講義や授業を通じて、地域を創造するアントレプレナーシップについて学ぶ。 - 課題研究の学びと自身のキャリアデザインを関連付けながら考えていきます。
3 学期	3 キャリアデザイン探究② 成果のまとめ	研究内容の振り返りを通じて、キャリアデザインを具体化させていきます。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	科学的な見地から実験結果等を正確に検証し、論文としてまとめることができている。 適切な分析方法、検証に基づいてグループでの評価及び個人のレポートをまとめることができている。	複数のデータや研究成果の客観的根拠に基づく検証により、論理を構築し、論文としてまとめられている。 課題研究の学びを自身の進路研究につなげて考えられており、質疑に適切に応答することができている。	コンテストへの出品に向けた班員との協働的な活動、よりよい作品を目指す粘り強い取組を行うことができる。 科学的な視点から、多角的に検証したり、よりよい研究へと進化を図ろうとする。
評価方法	課題研究論文評価 レポート評価	課題研究論文評価 レポート評価 口頭試問	課題研究論文評価 レポート評価 パフォーマンステスト

(備考) 定期考査は実施しない。